

PUSH通信

Vol. 1

Save ALL, Share LOVE みんなを助けよう！愛を分かち合おう！

1 PUSHプロジェクトって？

AED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生を普及させることで、安全な学校・スポーツ環境・社会を実現し、毎日3人の今まで救えなかった「いのち」を救うことを目標としています。

PUSH の3つの目標

♥ 胸をPUSH

目の前で誰かが倒れ、呼びかけに反応がなければ、すぐに119番通報とAEDを持ってくるように周りの人をお願いします。そして、直ちに胸骨圧迫を行います。

♥ AEDのボタンをPUSH

AEDが届き次第、電源を入れ音声メッセージに従ってください。AEDが「電気ショックが必要です」と指示した場合、倒れた人にだれも触れていないことを確認し、電気ショックボタンを押しましょう。

♥ あなた自身をPUSH

心肺蘇生の中で一番難しいのは、倒れた人に近づいて声をかけることかもしれません。まずは勇気をもって声をかけてみてください。そして、その時出来ることや思いついたことを行動に移してください。



学校でのPUSHコース

PUSHコースは、心肺蘇生の中でも最も重要な『胸骨圧迫とAEDの使い方』『誰かが倒れた時に、声をかける勇気』をできるだけ多くの人に伝えるために、短時間で効率よく勉強できるプログラムになっています。

またPUSHプロジェクトでは、学校へのPUSHコース普及を活動の柱の一つとしています。学校での心肺蘇生教育は、心肺蘇生の体系的な普及につながるだけでなく、児童・生徒たちに、**いのちの大切さ**、**互助の精神**の重要性を感じてもらう貴重な機会になります。

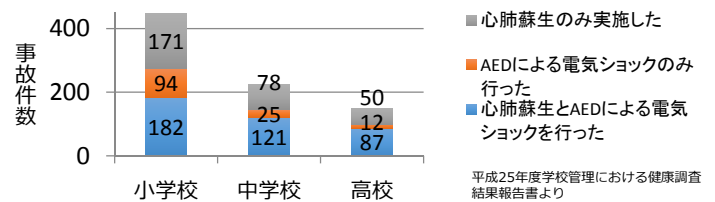


心肺蘇生トレーニングボックス（通称あっぱくん）やあっぱくんライトを使用することで、胸骨圧迫とAEDの使い方を短時間で効率よく学習することができ、従来のマネキンに比べ低コスト。また、DVD教材「たまたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー!!」を使用することで、小学生でも楽しく心肺蘇生とAEDを学ぶことができます。

購入は大阪ライフサポート協会のHP（<http://osakalifesupport.jp/>）よりお申し込みください。

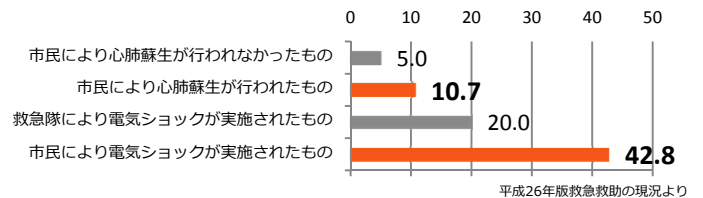
2 知ってる？身近な突然死

日本では心臓が原因の突然死が年間7万件発生し、その多くは成人です。しかし、子どもも例外ではありません。心臓が止まる原因は様々ですが、学校における心停止事故は過去5年間（平成20-24年度）で小学校447件、中学校224件、高校149件と報告されています。



3 おどろき！心肺蘇生とAEDの効果

心停止後の救命率は、時間が1分経過するごとに7-10%急激に低下していきます。救急車の平均到着時間は8.3分、救急車を待っているだけでは助けられない命が多くあります。心停止の現場に居合わせた人による胸骨圧迫の実施は救命率を2倍に、AEDによる電気ショックは2倍にまで高める効果があります。



PUSHコース時間割の例

基本PUSHコース時間割(45分)

1人1体の人形/模擬AEDを使用

項目	時間(分)
開会のあいさつ	1
イントロダクション	10
心肺蘇生法(実習)	意識の確認と胸骨圧迫 14
AEDの使い方(実習)	AEDの使用方法(シナリオ練習を含む) 16
	自施設のAEDの説明 3
質疑応答	1
合計	45



あっぱくん



あっぱくんライト



救急アニメ (DVD)



学校での心肺蘇生教育の普及並びに突然死ゼロを目指した危機管理体制整備の提言

2015年9月30日、大阪ライフサポート協会は日本臨床救急医学会と日本循環器学会などと合同で「学校での心肺蘇生教育の普及並びに突然死ゼロを目指した危機管理体制整備の提言」を、下村博文 文部科学大臣に提出しました。

◀以下、提言文を一部抜粋▶

突然の心停止から救いうる命を救うためには、国として心肺蘇生・AEDの知識と技能を体系的に普及する必要がある、学校での心肺蘇生教育はその柱となるものです。同時に、児童生徒に対し、災害時などに求められる互助の精神と一人一人の命を大事にする心、自己有用感を育成する絶好の機会でもあります。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を控えて、我が国の社会がグローバル化に一層適切に対応していくためにも、生命の重みを皮膚感覚で認識したうえで、隣人が心停止に陥った時、勇気をもって行動できる人材を育成する必要があります。

学校への心肺蘇生教育導入についての提言

提言の目標：全ての子供たちが**実技を伴う**心肺蘇生の教育を受けることができる環境を整えること。

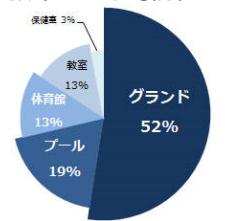
1. 中学校、高等学校において、学習指導要領に準じて学校内で実技を伴う心肺蘇生の授業実施を推進できるよう促すこと。
2. 小学校については、学習指導要領に「けがの手当」が示されている体育に加えて、特別学習等において心肺蘇生・AEDの実技を盛り込むことができるかを検討すること。
3. すでに小学生に対する心肺蘇生教育を導入している一部の地域・学校においては、その効果を評価すること。
4. 大学の教職課程においては心肺蘇生指導プログラムの必修化をはかり心肺蘇生を指導できる教員を養成すること。
5. 突然の心停止、災害に対する学校の安全を確保するため、AEDの設置に加え、全教職員の心肺蘇生講習受講を必修化すること。
6. 現職の教員を対象とした再研修において心肺蘇生法の指導法を検討すること。
7. 心肺蘇生の授業実施に必要な予算の措置を検討すること。

学校への心肺蘇生教育導入によって期待される効果

1. 命を助ける行動を学ぶことを通じて、互助の精神、命を大事にする心、人を思いやる心を育むことができる。
2. 学校の安全管理につながり、子供の命を守ることができる。
3. 将来日本を背負って立つ人材のすべてがAEDを含む心肺蘇生、応急手当てを行うことができるようになり、心停止例の救命率向上、災害時の地域の救急対応能力の向上につながる。

1 日本循環器学会 提言「学校での心臓突然死ゼロを目指して」

学校内で発生した心停止例の半数は心臓病の診断のない児童であることが報告され、心停止の予測が難しいことがわかります。しかし心臓震盪（胸を強打することで起こる心停止）を除いた校内心停止のほとんどが倒れる瞬間を目撃されています。さらに、そのうちの38%でAEDが使用され、97%で心室細動（心臓が細かくふるえ、AEDによる電気ショックが必要な状態）が確認されています。これは、AEDによる早期の電気ショックにより救命される可能性が高いことを示しています。



n=32 (心臓震盪を除く)
Mitani Y, et al. Circ J 2014;78:701-7

詳しくは学会ホームページをご覧ください。

<http://www.j-circ.or.jp/cpr/suggestion.html>

2 日本臨床救急医学会 学校へのBLS教育導入検討委員会

学校でのBLS（心肺蘇生）教育導入検討委員会により、45分または90分程度で実践できる指導コンセンサスを作成・提示し、さらに各学校の先生が授業内で心肺蘇生教育を行う際の参考として「学習指導案」や「授業展開例」「スライド例」などの情報提供も行っています。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

http://jsem.umin.ac.jp/about/school_bls.html

本提言中に掲載していますが、各学校が学校管理下で発生する心停止およびその準じる重大な事故発生に対する備えの充実度を自己点検するため「**体育活動時等における急変対応体制チェックリスト**」を作成しました。危機管理体制のさらなる整備と安全な学校環境の構築のためにご活用ください。

減らせ突然死プロジェクト



減らせ突然死実行委員会は、一般市民がAEDを使用できるようになって10年目の節目に立ち上がった組織です。学校やスポーツ現場における心肺蘇生教育の促進のため、**小学生向けの副読本「命を守る 心肺蘇生・AED」**を作成し、2014年度は5万部、2015年度は13万部を全国の小学校に無料配布しました。ホームページに先生向けの解説書と合わせて掲載していますのでご活用ください。

また、より多くの方々に心肺蘇生やAEDに興味をもってもらうため、ウェブで楽しく学べるゲーム『**AEDサスペンスドラマゲーム「心止村（しんどむら）湯けむり事件簿**』が**年末に公開予定**です！無料で楽しめますので、家族・友達・同僚みんな誘ってアクセスしてみてください。

<http://aed-project.jp/>

減らせ突然死

検索

